

北朝鮮による拉致の分析

惠谷 治

過去の北朝鮮による拉致事件を分析すると、以下のような8つの目的が浮かび上がってくる。また、拉致事件の状況をみると、拉致は3つの方法で実行されている。

拉致の目的

- (1) 秘密隠蔽
- (2) 背乗り（身分盗用）
- (3) 作業員として活用
- (4) 作業員現地化教育の教官
- (5) 拉致被害者などの配偶者
- (6) 特殊技能者（専門家）
- (7) 反北活動の阻止
- (8) 対南宣伝に利用

拉致の方法

- (A) 遭遇拉致（工作活動の目撃者など上記目的の1になどの場合）
- (B) 条件拉致（上記目的の2から5、8などの場合）

北朝鮮では「マグジャビ（手当たり次第）」と呼ばれ、原則的には党作戦部の戦闘員だけの機動的な作戦

- (C) 人定拉致（上記目的の5から7の場合）

基本的には特定の個人の場合であるが、「若い女性」あるいは「背乗り対象者」という条件の拉致であっても、対象者を最終的には限定しなければならず、党作戦部と党連絡部や党調査部との協同作戦となる

北朝鮮による拉致および拉致未遂事件（韓国拉北漁民事件を除く）

- 韓国や他の国籍の人たちの拉致事件
- 日本政府が認定している拉致事件「12件17人」
- ◎その他の日本人拉致事件
- 拉致未遂事件
- ☆拉致関連情報

第1期 建国から朝鮮戦争休戦まで（金日成時代で偵察局が主体）

☆1946年7月31日 金日成の「南朝鮮からインテリを連れてくることについて」（金日成の韓国人拉致指令）

☆1950年7月17日 北朝鮮軍事委員会第18号決定書（朝鮮戦争中の50万人移送計画）

第2期 朝鮮戦争後から対南工作機関大検閲まで（金日成時代で党3号庁舎が主体）

◎1963年5月12日 石川県志賀町高浜の沖合で、寺越昭二（36歳）、寺越外雄（24歳）、寺越武志（13歳）を拉致。金正日政治軍事大学の「航海講座」の呉グホ教官は、1980年代末に寺越事件は「自分がやった」と学生たちに語り、「おれが元祖だ。おれがいるときにたくさんやった。ここ（大学）にいる日本人（拉致被害者）はみな知っている」と明言（日本人拉致の元祖発言）

☆1969年11月 金日成は3号庁舎拡大幹部会議において「必要なら日本人を包摂工作し拉致工作もすることもできる」と言明（金日成の日本人拉致承認）

■1969年12月11日 北朝鮮工作員の趙昶熙が大韓航空機をハイジャックして平壤に着陸。乗員乗客51名中11名が未帰還（拉致）

☆1970年3月31日 「よど号」がハイジャックされ平壤に着陸

■1970年6月5日 韓国海軍の非武装船「1-2」艇を拿捕し、軍人21人を拉致

◎1970年8月8日 加藤久美子（22歳、事務員）を拉致（安明進の目撃証言）

■1971年4月5日 東ベルリンから西ドイツ大使館員の兪ソングン一家4人が失踪
兪ソングンは工作員と金日成が言明（『金日成の秘密教示』104頁参照）

◎1973年7月7日 古川了子（18歳、会社員）を拉致（安明進の目撃証言）

□1974年4月3日 金日成が李厚洛前KCIA部長の拉致を指令（実行前に中止）

◎1974年6月中旬 渡辺秀子の2児を拉致（父親の高大基は工作員で北朝鮮に帰国）

■1974年6月28日 韓国海洋警察「863艦」を沈没させ、警察官2人を拉致

第3期 金正日による対南工作機関掌握以降（金正日時代で党3号庁舎が主体）

☆1976年初め 金正日は対南工作部門幹部会議において「工作員の現地化教育を徹底的におこなえ。そのために現地人を連れて来て教育にあたらせよ」と指示（金正日の外国人拉致指令）

◎1976年7月中旬 福留貴美子（24歳、大学卒業直後）が羽田から出国。友人に「モンゴルを一人旅したい」と語っていたが、出国先はスウェーデン

□1977年7月29日 ザグレブで尹静姫（28歳、女優）と白建宇（31歳、ピアニスト）の拉致未遂事件

■1977年8月11日 韓国木浦市沖の紅島海水浴場から李※校（18歳、高校生）と崔承民（17歳、高校生）の2人を拉致 ※は岷の山が王

●1977年9月19日 石川県能登半島宇出津から久米裕（52歳、警備員）を拉致

●1977年10月21日 松本京子（29歳、会社員）を拉致

●1977年11月15日 新潟市寄居浜付近から横田めぐみ（13歳、中学生）を拉致

■1978年1月14日 香港のリパルスベイ海水浴場から崔銀姫（48歳、女優）を拉致

■1978年4月13日 ノルウェーからオランダ留学中の高相文（29歳、教師）を拉致

■1978年4月24日 韓国全羅南道莞島郡ノブ島から徐ジェソク（38歳、教師）を拉致

●1978年6月6日 成田から出国した田中実（29歳、店員）をウィーンから拉致

- 1978年6月29日 田口八重子(22歳、店員)を拉致
- 1978年7月2日 マカオから、タイ人女性アノーチャー・パンチョイ(23歳、店員)、マカオ在住の中国人女性の孔令×(20歳、店員)と蘇妙珍(22歳、店員)の3人を拉致
- 1978年7月7日 福井県小浜市から地村保志(23歳、大工)と浜本富貴恵(23歳、店員)の2人を拉致
- 1978年7月19日 香港のリパルスベイ海水浴場から申相玉(52歳、映画監督)を拉致
- 1978年7月31日 新潟県柏崎市の中央海岸付近から蓮池薫(20歳、大学生)と奥土祐木子(22歳、販売員)の2人を拉致
- 1978年8月5日 韓国群山市沖の仙遊島海水浴場から金英男(16歳、高校生)を拉致
- 1978年8月10日 韓国・木浦市沖の紅島海水浴場から李明雨(17歳、高校生)と洪建杓(17歳、高校生)の2人を拉致
- 1978年8月12日 鹿児島県日置郡の吹上浜から市川修一(23歳、公社職員)と増元るみ子(24歳、会社員)の2人を拉致
- 1978年8月12日 佐渡島(新潟県真野町)から曾我ひとみ(19歳、看護婦)と母親の曾我ミヨシ(46歳)の2人を拉致
- 1978年8月15日 富山高岡市の雨晴海岸でカップル拉致未遂事件
- 1978年8月20日 シンガポールからマレーシア人女性イェン・ヨケフン(23歳)、ヤップ・メレンン(22歳)、シートー・タイティム(19歳)、マーガレット・オン・グアットチュー(19歳)の4人、そしてシンガポール人女性ダイアナ・ヌン・クム・イン(24歳)の5人を拉致
- 1978年8月 ベイルートからレバノン人女性シハーム・シュライテフ(21歳)、サミア・カブラ、ナイマ・カシル、ハファ・スカフの4人を拉致
- 1978年10月 ローマからルーマニア人女性ドイナ・ブンベア(28歳、芸術家)を拉致
- 1978年 フランス人女性拉致被害者3人(レバノン人拉致被害者が目撃)
- 1978年 イタリア人女性拉致被害者3人(レバノン人拉致被害者が目撃)
- 1978年 オランダ人女性拉致被害者2人(レバノン人拉致被害者が目撃)
- 1978年 ヨルダン人女性拉致被害者1人(崔銀姫が目撃)

◎1979年8月頃 小住健蔵(46歳、旋盤工)が東京の山谷から拉致

☆1979年11月 レバノン人拉致被害者の4人(シハーム・シュライテフ、サミア・カブラ、ナイマ・カシル、ハファ・スカフ)が帰国

◎1979年頃 金田竜光(26歳、店員)が神戸市東灘区から失踪

☆1980年1月7日 産経新聞が一面トップで「アベック3組ナゾの蒸発」を報道

●1980年5月中旬 マドリードから松木薫(27歳、語学留学生)と石岡亨(22歳、大学卒業直後)の2人を拉致

●1980年6月20日 宮崎県青島海岸の児童公園から原勲晁(43歳、調理師)を拉致

□1980年6月 デンマークで韓国人教授らに対する拉致未遂事件

●1983年7月15日 コペンハーゲンから有本恵子（23歳、語学留学生）を拉致

☆1985年3月1日 西新井事件でスパイ朴を指名手配（小住健蔵拉致が発覚）

☆1985年6月28日 韓国安企部が辛光洙事件を発表（原敕晁拉致が発覚）

■1985年12月13日 西独留学中の呉吉男と妻（申淑子）、2人の娘（恵媛、圭媛）の一家4人を拉致

☆1986年3月13日 ウィーンで申相玉・崔銀姫が米大使館に亡命（脱出）

☆1986年11月21日 呉吉男がコペンハーゲンで脱出

□1987年1月5日 シンガポールで尹デシク（香港在住韓国人）の拉致未遂

☆1987年1月21日 寺越外雄の手紙が姉のもとに届き、寺越武志とともに北朝鮮に住んでいることが判明

■1987年7月20日 ウィーンから李宰煥（25歳、米国留学生）を拉致

☆1987年9月3日 訪朝した寺越武志の両親が息子と弟（外雄）と再会

☆1987年11月29日 大韓航空機爆破事件

☆1988年1月15日 大韓航空機爆破テロ実行犯の金賢姫が記者会見で、日本語教育係だった日本人「李恩恵」の存在を公表

☆1988年3月26日 橋本敦参院議員（共産党）がアベック連続失踪事件について質問、梶山静六国家公安委員長が「北朝鮮の疑いが濃厚」と答弁

☆1988年9月6日 石岡亨の手紙がポーランドから札幌の実家に届き、北朝鮮に住んでいることが判明。有本恵子の住所と写真、幼児の写真などが同封。松木薫の存在に言及

第4期 国家保衛部による中朝国境周辺の拉致（金正日時代）

■1995年7月9日 中国延辺から安承運（50歳、牧師）を拉致

■1997年8月15日 韓国から丹東経由で呉益済（68歳、天道教教領）を拉致

■1999年9月17日 中国丹東からチャン・セ Chol（52歳、貿易業者）を拉致

■1999年9月×日 中国延吉から尹イクフン（47歳、実業家）を拉致

■2000年1月16日 中国延辺から金東植（53歳、牧師）を拉致

☆2002年9月17日 小泉首相第1回訪朝、金正日が拉致を認め謝罪

☆2002年10月15日 拉致被害者5名が帰国

☆2004年5月22日 小泉首相第2回訪朝、地村・蓮池夫妻の家族5名が帰国

☆2004年7月9日 ジャカルタで曾我ひとみ一家再会、7月18日 曾我一家日本に帰国